

## 日本商業學會第三回大會記

日本商業學會第三回大會は本年七月六・七の兩日、小樽商科大学を会場として開催された。参加者は遠く九州・神戸・大阪より東京・横濱・新潟等に涉り、約五十名を算し極めて盛会であつた。

第一日は午前中統一論題「證券市場と企業金融」について、小樽商大岡本理一氏、神戸大学平田日出夫氏、一橋大学深見義一氏、神戸大学福田敬太郎氏、大阪市大村本福松氏等からそれぞれ学理及實際に關する研究の發表があり、會員からも活潑な質問が述べられた。就中福田博士の「證券資本の實態」は現下の資本市場に於ける證券の役割りを明確にされて興味深かつた。

午後の部は自由論題による研究報告があり、關西学院大学三浦信氏の「アメリカに於ける配給論の性格論議に關連して」慶應義塾大学片岡一郎氏の「配給能率に關する一考察」横濱國立大学久保村隆祐氏の「配給客體としての用役概念」早稲田大学宇野政雄氏の「商品管理の若干考察」等が順次發表された。期せずして配給問題が中心となつたのは斯学の本質上當然であつたが就中片岡氏の報告は今後配給論の展開に一つの問題を投げたものと言へよう。

研究報告終了後、北海製罐及港内見学をなし、午後六時から銀鱗莊で開かれた安達小樽市長及び松川小樽商工會議所会頭の共同主催になる招宴に臨んだ。

第二日午前中は前日に引續き自由論題の研究報告で、小樽商大古瀬大六氏「ゲーム理論と販賣政策」早稲田大学原田俊夫氏「計數による販賣政策の決定」日本經濟短期大学岩本一美氏「經濟政策が商業教育(思想)へ及ぼした影響について」明治大学清水晶氏「市場調査部の地位と組織について」などが述べられた。原田氏の計數による販賣政策の決定は緻密な數的基礎に基づくもので從來やゝ閑却されたこの方面の研究に大きな示唆を與へたものと言ふべきである。

晝食中に理事会が開かれ、午後再び自由論題の研究報告があつた。報告者及テーマは、金城学院大学武嶋一雄氏「商業放送について」成城大学内田直作氏「買辦制度と經營代理制度について」早稲田大学青木茂男氏「企業の利益處分について」茨城大学桐田尙作氏「割賦販賣の實態」等であつた。桐田氏の報告はアンケートによる實際状態で頗る興味深いものがあつたが地域的に限られていたので、全國的な傾向を知るにはやゝ物足りぬ憾みがあつた。

かくて学会の主要行事は一應終り、會員總會に移り、向井会長司会の下に、會費値上げの件、新入會員承認の件、等は一同異議なく可決、役員選考については座長指名の九名の選考委員によつて選考される事となり、次回会場に關しては明春四月關西に於いて開催し、關西部会で場所を決定する事となつた。尙ほ會則に基づいて本年度の日本商業学会賞は茨城大学桐田尙作氏（著書「商業學概論」）關西大学今西庄次郎氏（著書「證券市場論」）に贈呈する事となり、向井会長から兩氏へそれぞれ賞金が贈られた。以上終了後小樽商大緑丘会の招待になる晚餐會に列した。

同夜は小樽市議事堂で公開講演會を催し、大阪市大村本福松氏の「經營者に必要な知識と能力」早稲田大学上坂西三氏の「日本貿易の現狀とその將來」神戸大学平井泰太郎氏の「増資と株式市場」日東證券土屋陽三郎氏の「日本經濟と證券市場の動向」等、時局柄最も適切な問題が各權威者によつて語られ聴衆に深い感銘を與へた。

第三日の七月八日は札幌に赴き、先づ證券取引所に於いて實情を視察した後座談會を開き、取引所當事者と膝を交へて問題を語り合つた。特に今西、平井、福田諸氏の地方證券所の在り方に對する痛烈な批判は札幌證券取引所により有意義であつた事は疑いない。

その後北海道大学低溫科學研究所、雪印乳業苗穂工場、日本麥酒札幌工場等を順次視察して午後五時札幌驛に到り解散した。

この日生憎朝來からの雨天で冷氣一入身に込み、行動にも種々不便を余儀なくされたのは參加された方々に誠に氣の毒であつた。しかし三日間を通じて極めて有益、有意義に學會を終了する事ができたのは、偏へに各位の御支持によるものと感謝に堪へぬと共に、安達小樽市長、松川商工會議所會頭、札幌證券取引所等の御厚意に深甚の謝意を表するものである。

（相澤正美）